

大腸CT検査の注意点

1. 当検査は腸管内の便をできるだけ少なくするために、前日に自宅にて下剤を服用していただきます。
2. 検査前に、腸の動きを抑える薬剤を肩の筋肉に注射します。
3. 炭酸ガスで排便感を感じることがありますが、検査中はガスを出さないようにお願いします。万が一検査中に吐き気・腹痛が生じた場合はすぐにお申し出ください。
4. 撮影は仰向けとうつ伏せでの2方向で行います。
上記の体勢が困難な場合は事前に、お申し出ください。

当院は、
日本消化器がん検診学会
大腸CT検査技術認定施設
です。



大腸CT検査 のご案内



大腸CT検査とは？

大腸CT検査とは、肛門より炭酸ガスを注入し、CTを用いて病変の有無を観察していく検査です。

より正確な画像を得るために、前処置として、少量のバリウムと下剤を飲んでいただきます。

こんな方にオススメ!!

- ☑ 健診で便潜血陽性を指摘された方
- ☑ 便秘・下痢などの症状がある方
- ☑ 過去に大腸内視鏡検査・注腸検査で辛い経験をされた方
- ☑ 短時間で検査を終わらせたい方



大腸CT検査をもっと知ろう!!

初めての方でも簡単!!

検査時間が短い!!
(15分程度)



- ・大腸CT認定技師による安全な検査
- ・専門の読影医による画像診断

大腸CT検査のメリット・デメリット

メリット

- » 内視鏡検査と比べ、下剤の量が少ない
- » 大腸だけでなく、腹部全体(肝臓・脾臓など)の情報も得られる。
- » 下剤は自宅で服用していただくため、院内の滞在時間が短く、検査後はすぐに帰宅できる。



デメリット

- » 少量の被ばくがある。(妊娠中、又はその可能性がある方は検査を受けることができない)
- » 内視鏡検査に比べ小さい病変がわかりにくい。
- » 異常が見つかったとしてもその場で処置ができない。(別途、内視鏡検査を受ける必要がある)



検査当日の流れ

約15分

- ・放射線科で受付をします。
- ・血圧測定、問診後検査着に着替えます。

- ・検査台に横になり、腸の動きを抑える注射をします。
(※注射をしない場合もあります。)

- ・肛門より検査用の細いチューブを挿入します。
- ・チューブより炭酸ガスを入れます。

- ・大腸を膨らませた後、仰向けとうつ伏せで撮影し、検査は終了です。

- ・着替え
- ・画像の確認ができ次第、会計後、ご帰宅となります。

※医師の判断により、診察をする場合もあります。

大腸CT検査の前処置

大腸検査を行うにあたり、前処置として自宅で少量のバリウム・下剤を服用し、大腸の中を空にする必要があります。



バリウム・下剤は複数回に分け、服用しやすくなっています。

大腸CT検査 前処置セット

検査の特徴

大腸CT検査は内視鏡画像や注腸検査と似たような画像が得られます。また、大腸以外にも他の腹部臓器(肝臓・胆のう・膵臓など)の評価もできるのがこの検査の特徴です。

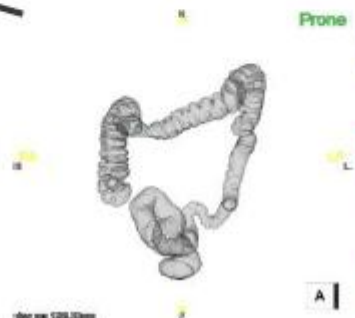
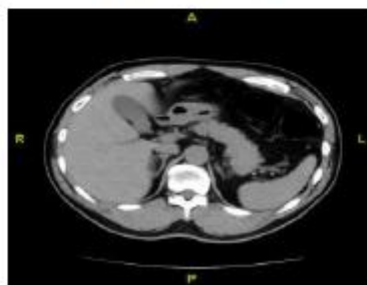
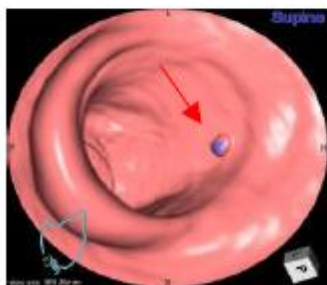


内視鏡画像



注腸画像

大腸CT画像



オススメ

	大腸内視鏡検査	大腸CT検査	注腸検査
下剤・検査食	あり	あり	あり
検査時間	20分程度	15分程度	15分程度
院内の滞在時間	自宅で下剤を服用する場合：2時間半～3時間程度 院内で下剤を服用する場合：6時間半程度	1時間程度	1時間程度
痛み	内視鏡挿入による痛みを感じる場合がある	お腹の張りを感じる場合がある	お腹の張りを感じる場合がある
被ばく	なし	あり	あり
病変の処置	○	×	×
処置後の入院	あり	なし	なし
他臓器の評価	×	○	×
抗血栓薬の休薬	必要	不要	不要